

万葉図書・情報室だより47号

古辞書

『和名類聚抄』



今回ご紹介するのは『和名類聚抄』(『倭名類聚抄』とも書き『和名抄』と略す)という古辞書です。

平安中期の承平年間(九三一―八)に、勤子内親王(醍醐天皇第四皇女)の命によって源順(九一一―九八三)が編纂しました。

和名とは、日本古来の事物の名称のことです。『万葉集』の解釈において、『和名類聚抄』が広く使われています。それは、『万葉集』にてくる地名・植物などの和名がわかるからです。

類聚とは、同じ種類の事項を集めることです。そのため『和名類聚抄』の構成は、天・地・水といった部に大分類し、それをさらに小分類しています。各項目は①漢語 ②出典 ③字音 ④和名が万葉仮名で記

されています。

実際に『和名類聚抄』の『元和古活字本』(版本)を使って「飴」をひいてみましょう。

① 飴 ② の つづき ③ ④ の つづき
説文云飴音怡和米麩煎也名阿女米麩煎也

※『説文』が云うには飴は、「音を怡、和名を阿女」米麩煎(米麩のこと)を煎ずる也とあります。

気になる言葉があれば、図書・情報室の『和名類聚抄』を使って調べ見ませんか。

ところで『和名類聚抄』は、編纂直後から重宝され、江戸時代初めの『元和古活字本』の出版によって世に広まりました。長い期間愛読されている古い辞書として、現在も研究者に活用されています。

写本

二十巻本系

古代律令制における国・郡・郷の名称を残していることから、古代の地理や地名の貴重な資料となつていきます。

・『高山寺本』(天理図書館蔵、重要文化財・巻六く巻十のみ現存
平安末期以前の書写)
・『伊勢二十巻本』(神宮文庫蔵、室町初期書写)

十巻本系

・『真福寺本』(宝生院蔵、重要文化財)
・『伊勢十巻本』(神宮文庫蔵、室町初期書写)

版本

二十巻本

・『元和古活字本』那波道円著
元和三年(一一六一七)出版

十巻本

・『箋注倭名類聚抄』狩谷掖斎著
京本(十巻本)を底本とし、伊勢本や元和古活字本などを参考に本文を校訂。さらに各項目ごとに和漢の書物を引用して注釈を施したもの。

文政十年(一一二七)に完成するが、生前には出版にいたらず、明治十六年(一八八三)に出版された。

掖斎は江戸時代の国学者であり、書家。

○新着図書案内○

☆飛鳥むかしむかし 国づくり編
(奈良文化財研究所編/朝日新聞出版)

☆萬葉写本学入門
(小川靖彦編/笠間書院)

☆萬葉集訓読の資料と方法
(池原陽斉/笠間書院)

☆漢簡語彙 中国古代木簡辞典
(京都大学人文科学研究所編/岩波書店)

☆東大寺辞典
(平岡定海/東京堂出版)

☆日本古代貨幣制度史の研究
(森明彦/埴書房)

利用案内

開館時間 午前十時〜午後五時半
休館日 1月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始・展示替日

図書室のご利用は無料です。閲覧でのご利用になります。

コピーサービス 白 黒 一枚 10円
カラー一枚 50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室
奈良県高市郡明日香村飛鳥一〇
0744-54-1850(代)